

Title	美の展開
Sub Title	
Author	岩田, 誠平(Iwata, Seihei) 小幡, 績
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2009
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2009年度経営学 第2398号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002009-2398">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002009-2398</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 論文要旨

所属ゼミ	小幡 績 研究会	学籍番号	80830122	氏 名	岩田 誠平
(論文題名)					
美の展開					
(内容の要旨)					
<p>日本では、これだけ科学技術が進歩し、ものが溢れているにもかかわらず、人々の日々の生活は安定していない。我々は、ものの存在を生産しながら、そのものに価値を与えることが出来ていないということになる。これは、無駄なことである。</p> <p>一方で世界においては、飢餓、貧困の問題が解決されていない。ものが求められるところには行き届いていない現状と矛盾がある。</p> <p>日本企業はこのような状況において、ただ利益を求めて、日々新たなものを供給し続けることが重要なのであろうか。日本国内の経済の問題を整理し、世界の飢餓・貧困に対して貢献することが出来た場合に、日本企業は世界で重要な地位を占めるのではないだろうか。そして消費者も、物質の所有によって欲望を達成したことでの意味がないことに対する疑問を整理しなくてはならない時期に来ている。そのために、日本国内における価値と価値観の存在を整理して日本の商業における無駄を減らすとともに、経営における親切さなど人間性の哲学を考察する必要がある。</p> <p>日本国内の商業の価値と価値観の研究に際しては、数字に表すことができず、かつ文章としても表現しきれない、美という観点から整理を行っていく。美は人間の持つ合理性、倫理性、経済性等、様々な要素を包含している、究極的かつ無限の価値観となると思われる。そのような観点から経済・経営を研究することは、経済合理性の観点から矛盾しないと考えられる。</p> <p>研究方法は、分類学を参考にし、①採集、②整理、という方法を選択した。すなわち、現象を集めてくること、そしてその現象を整理すること、とした。また今回の研究において、過度に論理づけることを避け、疑問を疑問として採集し、それを社会に問いかけることも行った。</p> <p>例えば、日本の持つ文化的・歴史的・風土的な美の存在、そして質素であることが豊かさであるといった哲学などを現象として採集した。結果、美は人間が自我や欲望を捨てることで、自然、時間、空間の三要素の価値を表現することが出来ること、また人間の過度の技術や方式など価値の生産を目的とした行為は、かえって価値を減ずることが整理された。そして人間性の観点から、美は人間の平等感覚と結びついており、経済活動に美がもたらされた場合に、人間生活の平等に企業経営が貢献する可能性があることも整理された。</p>					